

萩の湯だより 12月号

NO. 89

発行日 令和6年12月01日

作成者 長沼 雄三



住所 東京都台東区根岸 2-13-13
 JR 山手線鶯谷駅徒歩3分 JR 日暮里駅徒歩8分
 電話 03-3872-7669
 HP アドレス <http://haginoyu.jp/>
 営業時間 朝湯 6:00~9:00 (最終受付 8:30)
 11:00~深夜 1:00 (最終受付 0:30)

料金 大人550円 小学生200円 幼児100円
 サウナ プラス300円 (土日祝400円)
 *12月31日は特定日のためサウナはプラス600円
 タオルセット 100円
 リンスインシャンプー・ボディソープ無料
 定休日 第3火曜日 (祝日の場合翌日水曜)

12月20日(金) 21日(土) ゆず湯
 12月21日は冬至。1年間でもっとも昼の時間が短い1日です。萩の湯では冬至の20日と21日の2日連続ゆず湯を実施いたします。20日は先着1,500名様、21日は先着2,000名様にヤクルトプレゼント。

年末年始の営業のお知らせ

12月の定休日は12月17日(火)

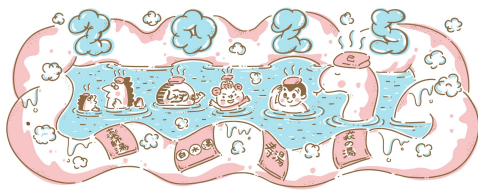
12月31日まで 通常営業
 元日 お休み
 1月2日 お休み
 1月3日以降 通常営業

*12月30日は、サウナ追加料金が土日祝の400円となります。

*12月31日・1月3日はサウナ追加料金が特定日の600円となります。

1月3日初営業はザボン湯

1月3日はザボン湯。台東区東上野で穫れたザボンをそのまま薬湯に浮かべます。当日は中学生以上のお客様先着2,200名様に、台東区でご活躍されるイラストレーター進士遙さんデザインの萩の湯・寿湯・白水湯・薬師湯4店舗コラボお年賀干支タオルをプレゼント。



*オーナーのコラム

「蔦屋重三郎」という歴史上の人物をご存じでしょうか？江戸時代の18世紀半ば1750年に生まれ、吉原に「耕書堂」という書店を出し、自ら版元(出版社)として喜多川歌麿、山東京伝、東洲斎写楽を世に送り出した「江戸のメディア王」と言われます。そして来年の大河ドラマはこの「蔦重」が主人公の「べらぼう」、特に前半は吉原が取り上げられるため、2025年の台東区は「べらぼう」を中心に盛り上がること間違いなしでしょう。

↑ *1618年誕生した幕府公認の遊廓は、はじめ日本橋人形町付近にありました。葎(あし)が茂っていたことから「葎原遊廓」と命名しましたが「あし」は「悪し」に通じるので「よし」に変えて「吉原遊廓」と呼ぶようになり1657年に今の日本堤へ移動しました

薬湯の予定

12月

1	日	ひのき	16	月	みかん
2	月	生姜エキス	17	火	定休日
3	火	乾燥ラベンダー	18	水	生姜エキス
4	水	パインアメ	19	木	パインアメ
5	木	実宝湯	20	金	ゆず湯
6	金	リンゴ	21	土	ゆず湯
7	土	みかん	22	日	実宝湯
8	日	玉露カテキン	23	月	リンゴ
9	月	イヨシコーラ	24	火	シャンパン
10	火	ホットハーブ	25	水	ルイボスティ
11	水	万田酵素	26	木	玉露カテキン
12	木	生緑茶	27	金	イヨシコーラ
13	金	シャンパン	28	土	ホットハーブ
14	土	ひのき	29	日	みかん
15	日	乾燥ラベンダー	30	月	万田酵素
			31	火	生緑茶

*上記は実宝湯・生緑茶、ラベンダー、ルイボスティ、ゆずを除き全て入浴剤を使用します。

露天風呂 13日硫黄泉

↓でも、吉原なんて風俗街のイメージが強いから、ドラマが盛り上がっても台東区、特に吉原に訪れる人なんて少ないのではと思う人も多いかもしれませんが、別の角度から吉原を見ると新たな発見があるかもしれません。私の観光ルートおすすめは来年2月1日オープンの大河ドラマ館(花川戸2-6-5)を訪れその後、吉原の五十間道を散策しながら蔦重の書店「耕書堂」を模した施設(来年1月18日開館)や、鬼滅の刃の聖地、吉原大門のあった場所、吉原遊郭から帰る客が名残惜しげに振り返る様子から名が付いた見返り柳を巡り、最後に「桜なべ中江」さんでめるのが王道だと思います。普段は吉原なんていかないよという方も意味行くチャンスですので正々堂々と吉原の街を歩いてみてください(笑)

